

国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,目次,奥付,その他

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2000

日本語科学

Japanese Linguistics

3

1998年4月

April, 1998

国立国語研究所

The National Language Research Institute
Tokyo, Japan

日本語科学 3

Japanese Linguistics 3

国立国語研究所

The National Language Research Institute

1998年4月

April, 1998

「…的」と「ポストモダン」など 大岡 信

研究論文 Articles

程度副詞と主体変化動詞との共起

Degree adverbs and subject-changing verbs

佐野 由紀子 SANO Yukiko

7

京阪方言における親愛表現構造の枠組み

The framework of expression of endearment in the Kyoto and Osaka dialect

岸江 信介 KISHIE Shinsuke

23

連体修飾節のテンスについて

On tense in relative clauses and noun sentential complementations

岩崎 卓 IWASAKI Takashi

47

「前提・焦点」構造からみた「は」と「が」の機能

An analysis of functions of the particles *Wa* and *Ga* using the concept of “presupposition/focus”

天野 みどり AMANO Midori

67

例示の副助詞「でも」と文末制約

The exemplifying marker *Demo* and its modal restriction

森山 卓郎 MORIYAMA Takuro

86

調査報告 Report

翼を持った日本語 1987～1994年度出版を中心に見る渡米語

Japanese words with wings: borrowings from Japanese to American
English, 1987-1994

エツコ・オバタ・ライマン Etsuko Obata REIMAN

101

.....

言語の対照研究と言語教育

佐々木 倫子

127

世界の言語研究所(3) インド国立科学ドキュメンテーションセンター INSDOC (インド)

チャウラ・K・アショク

135

第5回国立国語研究所国際シンポジウム(第4専門部会)報告

139

投稿規定・執筆要領

『日本語科学1』『日本語科学2』目次

編集委員会からのお願い

編集後記

『日本語科学』投稿規程・執筆要領

(1998年4月現在)

1. 目的

本誌は、国立国語研究所における研究、ならびに国立国語研究所の研究活動と関連を有する研究の成果を公表することを通じて、広汎な日本語研究の発展に寄与しようとするものである。

2. 発行の時期

本誌は年2回(4月, 10月)発行する。(投稿の受付は随時)

3. 投稿資格

上記の目的に合致する内容の原稿であれば、投稿資格は問わない。

4. 原稿の内容と種類, 分量

投稿原稿は未刊行のものに限る。投稿原稿の種類と分量(題目, 氏名, キーワード, 要旨, 概要を含む)は以下のとおり。

研究論文: オリジナルな知見の提供を含む学術論文。(20ページ程度)

調査報告: 調査結果の記述を主とする報告。(20ページ程度)

研究ノート: 問題提起, 事例報告, 中間報告などの小論文。(10ページ程度)

この他, 所内外の研究者に**展望論文**(研究動向, 現時点での課題, 将来の展望などについて論じた論文, 20ページ程度)の執筆を依頼することがある。

5. 原稿の書式

- 1) 原稿は日本語または英語で執筆する。ただし, 例文等において中国漢字(簡体字・繁体字), ハングル, キリル文字, ギリシャ文字を用いることは可(それ以外の文字はローマ字化)。
- 2) 原稿はA4判横書き, 43字×36行で作成する。(編集委員会が認めた場合にかぎり縦書きも可。A4判縦書き, 30字×21行×2段。)英文の場合は半角86字×36行を目安に原稿を作成する。原稿はワープロを使用してできるだけ刷り上がり時のイメージに近い形で作成することが望ましい。
- 3) 研究論文及び調査報告には, **キーワード**(5つ以内), **要旨**(問題と結論の要約, 10行程度), **概要**(議論全体の概要, 1ページ以内)をつける。研究ノートには要旨とキーワードのみをつける。和文論文の場合, 要旨・キーワードは日本語, 概要は英語を用いる(概要には英語のキーワードもつける)。英文論文の場合, 要旨・キーワードは英語, 概要は日本語を用いる(概要には日本語のキーワードもつける)。英文のネイティブ・チェックは執筆者の責任においておこなう。
- 4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。文献一覧の書式は以下のとおり。
著者名(発表年)「論文タイトル」『書名/雑誌名』巻号(雑誌の場合)ページ 発行者

6. 査読

研究論文, 調査報告, 研究ノートは, 編集委員会が依頼した2名の査読者が査読要領にもとづき審査し, 採録の可否を決定する。著者の氏名は査読者に公開せず, 査読者の氏名も著者に公開

しない。査読者と著者との連絡（査読者から著者への照会や修正指示，著者から査読者への回答など）はすべて編集委員会を介しておこなう。

7. 投稿の手続き

投稿原稿は随時受けつける。投稿に際しては、「著者の氏名／所属／連絡先（共著の場合は代表者の連絡先）／原稿の種類（研究論文，調査報告，研究ノートの別）」を明記の上，原稿一式を編集委員会に送付する。投稿原稿は原則として返却しない。

8. 採録決定後の修正

採録決定後，体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。査読者及び編集委員会から指示があった箇所を除き，採録決定後の改稿や修正は認めない。

9. 著作権

掲載された論文等の著作権（著作権法第27条，28条を含む）は国立国語研究所に帰属する。

補足1：文献一覧書式

- 宮島 達夫(1972)『国立国語研究所報告43 動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
井上 優・生越 直樹(1997)「過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合—」『日本語科学』1, 37-52, 国書刊行会
BOLINGER, Dwight (1978) Yes-no questions are not alternative questions. H. Hiz (ed.) *Questions*. 87-105. Dordrecht: D. Reidel Publishing Company.
HUDSON, Richard (1975) The meaning of questions. *Language* 51. 1-31.

『日本語科学1』(1997年4月) 目次

創刊のことば	水谷 修
研究論文	
字体に生ずる偶然の一致—「JIS X 0208」と他文献における字体の「暗合」と「衝突」—	笹原 宏之
連用形の時制指定について	三原 健一
過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合—	井上 優・生越 直樹
調査報告	
Phonological characteristics of Japanese-derived borrowings in the Trukese of Micronesia	Shinji SANADA
オーストラリア・ビクトリア州の通訳サービスと日本語	平野 桂介
『東京語アクセント資料』と辞書アクセント—尾高型アクセントを事例とした資料評価—	相澤 正夫
雑誌九十種表記表の統計	宮島 達夫
研究ノート	
助動詞「ない」の連用中止法について	金沢 裕之
短信	
「レキシコンにおける名詞」プロジェクトについて	ヨハナ・マティセン
その他	
世界の言語研究所(1) 国立国語研究院(韓国)	生越 直樹

『日本語科学2』(1997年10月) 目次

言語の「科学」に思うこと	鈴木 孝夫
研究論文	
安居島方言アクセントについて	清水 誠治
Survey of standardisation in Tsuruoka, Japan: Comparison of results from three surveys conducted at 20-year intervals	Masato YONEDA
Market value of languages in Japan	Fumio INOUE
温度を表す形容詞の意味体系—《物》と《場所》の対立—	久島 茂
買物における挨拶行動の地域差と世代差	篠崎 晃一・小林 隆
調査報告	
雑誌三種の表紙における文字使用の変化	中野 洋・中川 美和
その他	
世界の言語研究所(2) CSLI (アメリカ合衆国)	加藤 安彦
第5回国立国語研究所国際シンポジウム報告	

編集委員会からのお願い

投稿は随時受け付けますが、一応の目安として、4月刊行の号については前年の12月末日、10月刊行の号についてはその年の6月末日までにご投稿いただければ幸いです。

12月末日／6月末日以降に投稿された論文でも、審査の進み具合によっては、4月／10月刊行の号にただちに掲載されることもありますので、投稿の際は原稿の内容や体裁について十分に吟味してください。

全体の分量の関係で審査を通過した論文のすべてを掲載できない場合は、受理日が早い論文から先に掲載し、掲載できなかった分は次の号に掲載します。

原稿執筆の際は『日本語科学』投稿規定・執筆要領をよくお読みください。（書式の詳細については『日本語科学』所収の論文を参照してください。）また、原稿はできるだけできあがりのイメージに近いものをお送りください。

以下の点には特に留意してください。

- 1) 要旨とキーワードを本文の前につけてください。
- 2) 参考文献の後に、著者の氏名（ふりがな）、所属、連絡先（住所、電子メールのアドレスなど）をつけてください。
- 3) 論文の最後の1ページは概要（タイトル、著者氏名、キーワードを含む。和文論文の場合は英語、英文論文の場合は日本語）にあててください。概要は、論文の内容が把握できるよう、要旨よりもくわしい内容にしてください。
- 4) 論文の分量は、タイトル、氏名・所属、要旨、キーワード、本文、概要の合計が規定の分量を大幅に超過することがないようにしてください。
- 5) 英文のネイティブ・チェックは著者の責任でおこなってください。（編集委員会ではネイティブ・チェックは一切おこないません。）また、投稿の際にはネイティブ・チェック済みかどうかを明記してください。
- 6) 図版の転載など著作権にかかわることがらは、投稿の際に編集委員会までお知らせください。

編集後記

『日本語科学』も第3号を迎えた。年2回刊行のペースを維持するのは思いのほか大変であるが、日本語研究の総合的・学際的学術雑誌として一定の位置をしめることができるよう、今後も努力を続けていきたい。

『日本語科学』では、投稿論文の審査は研究所内外の研究者（1編につき2名）にお願いしている。今回も、査読者の方々には年度末の多忙の中多大なご協力をいただいた。心より感謝申し上げる次第である。

第3号は期せずして文法関係の論文が多くなった。投稿論文も、文法関係のものは他の分野に比べて多い。日本語文法の専門誌がないことも少しは影響しているかもしれない。『日本語科学』では、日本語の科学研究に関する論文であれば研究分野や投稿資格は問わない。多様な分野からの論文が投稿され、活発な議論が行われることを切に願っている。

編集委員

江川 清 (委員長, 国立国語研究所)
井上 文子 (国立国語研究所)
井上 優 (国立国語研究所)
杉山 明子 (東京女子大学)
鈴木 美都代 (国立国語研究所)
宮島 達夫 (京都橘女子大学)

『日本語科学』3

平成10年4月

国立国語研究所

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

TEL.03-3900-3111(代表)

[本書の市販品発行所]

株式会社 国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村2-10-5

TEL.03-5970-7421